

今日の情報化の進展は著しく、想像をはるかに超えて、私たちの生活様式を急速に変えつつあります。

高島の未来を担う子どもたちが、情報化社会の中で、たくましく生き抜くためには、コンピュータなどのICT機器を有効に使用して、さまざまな情報を活用する能力を身に付けておくことが大切になります。

教育委員会では、授業で活用する電子黒板やプロジェクターを平成29年度から計画的に整備し、本年度で小学校の全ての教室への配備が完了します。また、全小中学校にタブレット型端末を整備して、インターネットを活用した授業づくりを進めていきます。

電子黒板を活用した授業では・・・

電子黒板にデジタル教科書を映して、絵や文字を大きく示すことができます。画面に映し出される教材に、全ての生徒が注目します。同じものを見ることは、同じ情報共有することです。同じ情報をもとに、生徒のグループ活動や意見の交流が活発になります。教室の電子黒板がいつでも使えるので、毎日の授業で多様な活用ができるようになります。



これまでの中学1年生の数学の空間図形の授業では、黒板とチョークだけで、表現や想像が難しい分野でした。

しかし、電子黒板を活用することによって、立体的に図形を映し出すことができるようになり、生徒たちはすぐに図形の特徴をイメージし、グループの議論や意見の発表に熱がこもるようになりました。



中学3年生の美術の授業では、生徒全員が2つのスクリーンの前に集まりました。2枚の絵に描かれているのは「波」。一方は、ヨーロッパの「油絵」、もう一方は日本の「浮世絵」。2つのプロジェクターとスクリーンを使って、生徒は大きく映し出された2つの「波」を同時に見比べました。先生のギャラリートークから、生徒それぞれが特徴の違いを考え、それをもとにグループで議論し、「鑑賞」が深まりました。

道徳の授業で電子黒板を使うと、読み物資料のあらすじを絵を使って提示することができ、生徒たちは話の流れをしっかりと確認することができ、その後の話し合いの場面でも、電子黒板に映された絵を見ながら、考えを交流することができました。



市内小中学校では・・・

電子黒板やプロジェクターを活用した授業では、映像や写真などを通して、学習内容の理解が深まったり、子どもたちの話し合い活動が活発になったりすることで、子どもたちの学習意欲や表現力の向上につながっています。

教室や特別教室でICT機器を活用し、今までは違う授業内容の工夫や手法が使えるようになりました。日々進化する機器を有効に使用して、より効果的な授業の手法を探っています。

企業版ふるさと納税による応援、誠にありがとうございます！

兵庫県朝来市のサンポリマー株式会社から、企業版ふるさと納税で1,000万円のご寄付をいただきました。今年で3年目になります。ふるさと高島への恩返しをしたいとの思いから、ご寄付という形で応援させていただいており、寄付金は小中学校のICT環境の整備に活用させていただきました。ICTを活用した教育によって、学力向上を図るとともに、高島市に愛着をもった子どもたちの育成につなげていきます。



ふるさと納税に「思いやり返礼品」を追加しました！



ふるさと納税で思いやりを届けられる返礼品を追加しました。

シルバー人材センターの生活支援サービス

草刈りや掃除、買い物や話し相手まで…。離れて住む家族や友人が、高島市内に住む人の困りごとの解決や、所有する物件の管理なども行うことができます。

就労継続支援事業所によるお礼の品

藤の樹工房「藤美人の湯」とドリーム・あんです「焼き菓子セット」、ドリーム・だんだん「さをり織りトートバッグ」を追加しました。

郵便局のみまもりサービス

滋賀県内、初導入！

郵便局員の訪問や電話で、離れて住む家族に代わってみまもりを行います。



市外にお住まいの方にお勧めください！

※ふるさと納税の寄付に対する返礼は、市外在住の方に限ります。また「みまもりサービス」「生活支援サービス」の対象は、市内在住の方または、市内に所有されている物件等になります。申し込みの条件や寄付の方法など詳しくは、お問い合わせください。

☎ 総合戦略課 ☎ (25) 8114